学校番号	１００７

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
講座名	古典Ⅱ						
使用教科書	新高等学校　古典Ｂ　（明治書院）						
副教材等	みるみる実力アップ古文２（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・四年制大学進学者向けに、入試問題を解くのに必要な古典の知識を習得する。
・必要な文法を覚えて古典の文章を読み取り、内容を理解する。
・受験に必要な内容はもちろん、筆者やその時代の背景、登場人物の心情理解や、面白みを理解する。
・選択者がお互いに教え、学びあう授業を目指す。

２　学習の到達目標

1 年時の「古典の世界」、2 年時の「古典」をさらに発展させた講座。文法事項を学習しながら、古典文学の情緒や、古人の考え方に触れていく。教科書にある有名な作品について読解を深め、文法については助動詞、さらに助詞の意味がとれるようになることを目標とする。漢文は基本的な文法を押さえ、文章の意味を取れるようになることを目標とする。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す･聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、日本の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。			古典を読んで思想や感情などを的確に捉えたり、その価値を考察したりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察（出席状況） 記述の点検（ノート、プリント課題等）			記述の確認（プリント課題等） 定期考査	記述の確認（ノート、プリント課題等） 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1ターム	説話・歴史物語	十訓抄「博雅の三位と鬼の笛」 大鏡「三船の才」 「肝試し」	○			○	○	a: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み、考察しようとしている。 d: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト
2ターム	物語	源氏物語 「光源氏誕生」 「物の怪の出現」 「野分の垣間見」	○			○	○	a: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み、考察しようとしている。 d: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト
3ターム	日記	蜻蛉日記 「町の小路の女」 和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」 紫式部日記 「秋のけはひ」	○			○	○	a: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み、考察しようとしている。 d: 文章に書かれている書き手の意見を表現に即して読み深めている。 e: 古文を読むことに役立つ、文語のきまりを身に付けている。	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト
4ターム	詩	漢文教材 漢詩・詩文	○			○	○	a:文章に描かれている出来事や人物の心情を表現に即して読み、自らにひきつけながら味わおうとしている。日本の言語文化は、中国をはじめとする外国の文化の受容とその変容を繰り返しつつ築かれてきたことに気付こうとしている。 d:文章に描かれている出来事や人物の心情を表現に即して読み深めている。 e: 漢文を読むことに役立つ、訓読のきまりを身に付けている	a:行動の観察、記述の点検 d:記述の確認、定期考査 e:定期考査、小テスト

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。